

寛明日記

自六十五
至六十八

二十一

自明曆二年九月
至同三年三月

内閣文庫		
番 號	和	35302
冊 數		22(21)
函 號	163	199

内閣文庫			
一 六 三 函 一 架	二 冊	三 五 三 〇 二 號	和 書 類



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



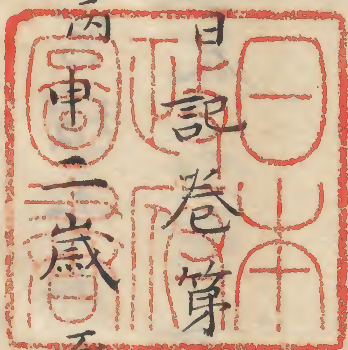
© KODAK, 2007 TM: KODAK







寬明
明曆



日記卷第六十五

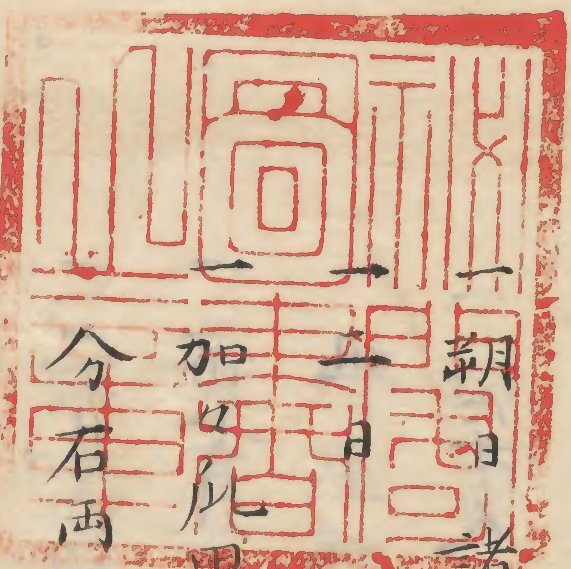
丙申二歲至十月

九月



記錄

引馬文庫



一朝諸大名登城御目見有之

加比甲斐守元屋敷曾我丹後守屋敷半

分石所堀田倫中守拜領

一四日京極守智出入相濟

一市橋半右衛門内方死去

一六日

一當七月品川温飢屋ニテ狼籍仕候者宅間伊織

組

長垣七良左衛門

卒人

土鏡金左衛門

卒人

羽田弥一右衛門

御宮坊主

遊知

町人

一人

右之内長垣七良左衛門青山大膳ニ御預残

四人竈舎被仰付

一大沢兵部息女林権左衛門江縁組被仰付

一松平右衛門佐ヨリ注進八月十五日大風吹國

侍屋敷町屋敷百姓屋敷凡ニ八十九百軒余

吹潰申由也

一評定町江井上筑後守町奉行衆出座友知其
外浪人町人被召此外同類有之哉白状可

申由御僉儀也友知申上候ハ其時之同類ハ
無御座候ト申常ニ之連ハ有之哉ト御尋候ニ
其ハ何裡モ有之其ヲ申上候得ト奉行衆
被申友知申候ハ我亦臣ノ如クニ御仕置ニ
被仰付候ハ御聞候テモ尤ニ候トテモ歴
、衆ニ候間同罪ニ被仰付間敷候ハハ歴
、衆ニ御難付申間被聞召候テモ無益ナル
莫ト申上候一段尤候若其モ御尋候ハ可申

上候哉ト左候者是ハ御老中江申談友知口
上可兼ト、莫ニ候其外町人窄人連ニ同類
有ヤト尋被申処ニ常ノ供立無之申故此三
人ハ拷問ニ掛申然氏何モ白状不仕候

一七日

一松平伊豆守息伊勢守内方平産

一八日

一綿二百把金馬代

泰勒名代ニ上ル

真田伊豆守

奥州江御馬買二被遣

一黄金一枚給二羽折

黑沢左之助

一同断

水野小左衛門

一九日

一諸大名登城重陽之御礼有之

一未年於日光御法夏御用被仰付候由御老

中一人宛御付候由

吉良若狹守

今川刑部太輔

松平出雲守

朽木氏部少輔

小出越中守

曾我太良左衛門

伊丹藏人

一未年御座之間御作夏并二之御丸石垣御

普請被仰付候役人

惣奉行

久世大和守

御作事奉行

舟越伊豫守

御作事

牧野織部正

御勘定奉行

畠根源左衛門

御普請奉行

永井弥右衛門

上二同

城半左衛門

村越次左衛門 兵 御老中一人宛

一三州鳳来寺御用 三廿被仰付衆

遠山十右衛門 長谷川太兵衛

一十一日 泰勒衆御礼

一東加賀染三十端銀五十枚 松平永弾守

一綿百把金馬代 小笠原信濃守

祝言相濟御礼

一小袖十金馬代 松平下野守

一小袖十 同 内室

一小袖十 越後守内室

一御樽肴 高田様

一御暇被下衆

一御小袖四羽折一 本多監物

一同五羽折一 土方河内守

一同断 井上河内守

一同断 内藤飛弾守

一同四

青山大膳

一同五羽折

堀義作守

一拜領ナレ

土屋民部

駿河江御目付御暇

一金二枚小袖

矢部藤九郎

豊後江之御目付代り

御暇

一金五枚

天野主馬

一金五枚

西尾藤兵衛

一大番高木主水正組加藤伊兵衛乱氣ニ松平

伊豆守方江泰ムサト仕タル変ヲ申ニ付親類

衆江御預被成候

一箱看

病後御礼

松平提津守

一大坂帰御礼

喜多見久太夫

能勢惣右衛門

一十七日

一石谷将監之甥野間藤市郎死去

一十八日 大風

一十九日

一 吳服_ニ御暇

松平下総守

右八因幡守子初_ニ御礼

一廿一日

一 今夜清泰院様御逝去

一廿二日

一 諸大名登城是_ニ昨夜清泰院様御逝去故

御機嫌窺又_ニ御悔之為也

一 清泰院様御法夏小石川傳通院_ニ有之

一 松平出雲守曾根源左衛門_ヲ被仰付_{昔比御入館之由也}

一 今日土州庄屋源五郎岐嶋_六之進於評定場

對變有之

一廿五日

一 諸大名登城

一 加藤肥後守内室當月十七日於上方病卒

一上使御老中三人ヲ被仰付銀子五十枚松平
加賀守江被下

一廿六日

公方様今朝御精進御上被遊

一廿七日

一廿八日

一諸大名登城

一廿九日

一十月

一朔日

一諸大名出仕モ玄猪之御祝モ止申候

一五日

一豊後府内江御目付代リ稻葉能登守来

一正月末ニ彼地請取可申由能登守家来迄

被仰渡

一増上寺破損奉行

八木但馬守

一同所御手傳

土井兵庫頭

一駿府久能破損奉行

大河内善兵衛
嶋 覺左衛門

一十三日

一石谷友之助病死

一十五日

大坂帰参勤御礼

一羅紗十箇金馬代

内藤帶刀

一小袖^五

内藤左京

駿河帰

一見臺

滝川長門守

一箱肴

久世右衛門

一十六日

一夜四ツ時分ヨリ十七日八ツ時分迄火更右之

吳服町二丁目北カハ太郎兵衛甚右衛門

西人火元相論類火之所救都合四十八町
家救八百六拾八軒此外會所屋敷七間并
備前守同心屋敷寺二ヶ寺也

一十七日

秋田安房守

六郷伊賀守

浅野内匠頭

遠藤備前守

嶋津但馬守

九思式部少輔

一柳監物

相馬長門守

脇坂中務少

右之面々八本火消衆

松平遠江守

新庄越前守

亀井能登守

稻垣信濃守

植村右衛門佐

黒田市正

金森長門守

岩城左京

松平備前守

松浦肥前守

小笠原主膳

主税十二

右當分儀二被仰付候今日被為召置申
候由上意也

一十八日

一熊泥偉三哉 奉勒 津輕十良左衛門

一箱看 同 榑原越中守

一箱看 湯治歸 藤堂和泉守

一同斷 同斷 織田山城守

一同斷 戸田土佐守

一同斷 伊沢隼人

一同斷 松平上野介

一同斷 板倉河波守

一同斷 松平大和守

一同斷 三浦志摩守

一箱看 病後御礼 池田右京

御暇之衆

一小袖二十 松平棋津守

一同六羽折

一同五羽折

一同折

一同折

一三束二卷

一一束一卷

一同折

一同折

京帰

小笠原上野介

小笠原出羽守

稻垣信濃守

西尾主水

増上寺

傳通院

弘經寺

勝願寺

飯沼

鴻巣

一末年御本丸奥方御普請ニ付金物塗物繪

等之奉行被仰付候

多賀外記

鈴木弥次右衛門

久貝惣左衛門

一前之石奉行年老申ニ付加リ候ヘテ指引

可仕之由被仰付

中嶋孫右衛門

孫兵衛

横山藤左衛門

孫兵衛

一廿一日

松平大和守

戸田采女正

松平山城守

松平伊賀守

牧野飛彈守

水谷伊勢守

服坂中務少輔

相馬長門守

植村右衛門佐

浅野内匠頭

右之衆来年御作夏之手傳一万石二百人
宛出之可被相勒之由被仰渡候

一酒井大守頭同全此六人ハ御本丸二之丸之

間之石垣之役人ニ被仰付

一紅葉山火之御番稻葉美濃守ニ被仰付

一櫻田御門番青山大膳ニ被仰付

一廿二日

一中橋玄淋上ケ屋敷跡前之如ク堀切ニ成其外

會所ニ居申候今ハ吉原町ニテ代地ヲ被下會
所明可申於評定場被仰渡

一廿四日

一駿河定番衆屋敷廻り破損申候ニ付繕仕候
様ニトテ銀子被下衆ハ

三十貫目

松平丹後守

拾貫目

三宅太兵衛

十五貫目

井戸新右衛門

十貫目

神保三良兵衛

六貫目

駿河町中拜借

右太破損出来候故也町中拜借銀連々

一上納可仕由也

一蠟燭

五箱銀馬代

関宿ヨリ参勤

白鳥

一羽

板倉周防守

一廿五日御鷹之鶴拜領之面々ハ

一上使安藤備後守

井俣掃部頭

一上使大久保豊前守

保科肥後守

一今日挿生内膳ヲ被為召御兵法御稽古初

被遊故ニ御小袖共内膳頂戴之

一廿六日

一重陽之御内書何部豊後守渡被申諸大名之使者如例身御小袖頂戴

一今日土岐縫殿介蜷川喜左衛門大坂御目付代り被仰付近日全足之由

一稻葉美濃守娘堀田備中守江祝言相済

一御鷹上覽御馬二被為召候

一駿州新田切出申二付為見分被遣

小袖二
小嶋庄右衛門

一廿七日

一虎皮十枚馬一疋

一青皮十枚 宗 播磨守 参勤御礼

一敷三十本御太刀一腰

一御吳服十 松平大膳大夫

右姉祝言相済御礼也

参勤御礼衆

一箱看

太田掛津守

一同断

堀田上野介

一染皮三十枚

里川其兵衛

己上

一御小袖十

御暇

松平上野介

一绵百把

小松中納言使者

本多安房守

金馬代

右八 清泰院様御逝去二付名代使者

被差上候

一金子五枚

板倉其左衛門

小袖三羽折

右女院様方ヨリ

一廿八日

一諸大名登城

一廿九日

一新馬場江被為成御馬御上覽二付吳服

一 拜領之面

二 小袖三

三 同断

一 同二

同断

同

同二

同二

荒木十左衛門

河村善七

加藤権左衛門

諏訪善兵衛

石井孫左衛門

西川佐左衛門

同二

同二

一 御鷹鶴拜領之衆

上使能勢小十郎

上使石川弥左衛門

上使柘植右衛門

上使下曾根三十郎

一 上使阿部豊後守三御暇

中山勘兵衛

諏訪部文九郎

松平陸奥守

松平越前守

佐竹修理太夫

藤堂大守頭

小袖三十

松平土佐守

一晦日

一真田伊豆守隱居被仰付

拾三万石之内

十万石川中嶋

真田内記

三万石沼田

孫河内守子

同兵吉

一吉田盛法院河野良以兩人閉門御赦免被成

一御鷹之鶴拜領之衆

上使多賀左近

細川越中守

上使下曾根三郎

松平大膳太夫

上使石川弥衛門

上杉播磨守

来年御普請御手傳

一御本丸

十五万石

松平大和守

七万石

松平山城守

三万八千石

松平伊賀守

七万四千石

三万五千石

五万石

六万石

五万三千石

二万五千石

一御石垣方

十万石

牧野飛彈守

内藤飛彈守

水谷伊勢守

相馬長門守

服坂中務少輔

植村右衛門佐

戸田米女正

二万石

酒井大學頭

一万石

同 杏

一惣奉行

久世大和守

一御作事奉行

舟越伊豫守

牧野織部正

曾根源左衛門

村越次左衛門

一御石垣奉行

永井弥右衛門

城 半左衛門

一八 扎改奉行

山中藤兵衛

一 御材木奉行

永井清太夫

美濃部世藤次

一 漆奉行 什小買物

田辺清右衛門

一 繩竹奉行 什小屋材木

竹村九良右衛門

武藤庄五郎

小宮山市良兵衛

多賀又左衛門

萩原十介

一 釘并鉄刀十物銅尾

水部藤左衛門

一 石奉行

天野麥右衛門

中嶋弥兵衛

一 土尾奉行

美濃部三良右衛門

竹田六良右衛門

石野六左衛門

横山甚兵衛

山本忠兵衛

一 置奉行

柴村左源太

一 張什繪方塗物蔭繪カサリ金物之奉行

多賀外記

久具惣左衛門

鈴木弥次右衛門

已上

寛明日記卷第六十五終

寛明日記卷第六十六

明曆丙申二歲至十二月

十一月

一 朔日

一 諸大名登城 御目見有之

一 五日 御役替被 仰付

一 御書院番頭稻葉伊勢守跡ヲ松平伯耆守

被 仰付

一御小姓組番頭松平伯耆守跡ヲ三枝惣四郎
被仰付

一御書院組池田修理跡ヲ朝倉甚十郎被
仰付

一佐渡支配御手洗四兵衛被仰付加増五百石
合千三百五十石扶持方二百人扶持被下之

跡目被仰付候衆

一七百石千表 如元

山城守子 荒川右近

一三千石 美濃守子 大岡兵

一五百石 同二男 三浦七兵衛

一三千石 備前子 宮崎織部

一五百石 同二男 本多金左衛門

一二千二百石 助太夫子 玉虫八左衛門

一七白石 五左衛門子 前田孫介

一七白石 修理子 池田采女

一三百石

同二男

同千勝

一七百日

八之丞子

阿部奎之助

一八百石

五良左衛門子

戸田五郎八

一三千石

小左衛門子

庄田三太夫

一六日

一公方様御城廻リニ初而被為成ニ付小袖

拜領之衆

小袖三

加藤助左衛門
イニ戸田助右衛門

小袖三

小栗長右衛門

小袖三

大草安右衛門

小袖二

小野少右衛門
イニ小栗佐左衛門

小袖一

小栗忠兵衛
イニ小野

一七日

一 叅勤御礼

一箱肴

奥平美作守

一綿百把

松平河内守

一 泥障 三掛

諏訪右衛門

一同断

同平兵部

一 雨鞍覆 二

木下左近

一 小袖 三 修理二男初而御礼

山内大膳

金子三十枚

綿二百把

家督御礼

真田内記

金子十枚

綿百把

同 兵吉

右兵吉八沼田拜領之御礼

高木真宗 代三
十枚

隱居御礼

同 伊豆守

葉茶壺

一 小袖 十

山内修理

一同三羽折 一

諏訪右京

一 箱肴

細井佐次右衛門

一同 湯治歸御礼

戸田撰津守

一同

三好能登守

縁組被仰付候衆

一 酒井雅樂頭娘ヲ

藤堂和泉守

一 松平出羽守娘ヲ

松平大和守

一 阿部備中守娘ヲ

松平大藏

一 水野出羽守娘ヲ

小笠原上野介

一 水野出羽守娘ヲ

菅沼主水

一 牧野内膳娘ヲ

同 飛彈守

一 井上河内守娘ヲ

青山大藏

一 伊丹藏人娘ヲ

皆川又七郎

一 有馬松千代姉ヲ

稻葉右京

一 丹羽式部娘ヲ

土井虎之助

一 太田原備前守娘ヲ

宮城監物

一 牧野播磨守娘ヲ

太田原主膳

一 久世大和守娘ヲ

遠山久太夫

一 牧野半右衛門妹ヲ

酒井大學

一 森川半弥娘ヲ

山口半右衛門

一 小出與平次娘ヲ
一 板倉主膳娘ヲ
一 松平將監娘ヲ
一 桑山修理姪ヲ
一 酒井飛彈守娘ヲ
一 戸田相摸守娘ヲ
一 大森信濃守娘ヲ
一 土屋但馬守娘ヲ

北條右近
高木善四郎
岡部阿波守
根来五左衛門
佐藤勘右衛門
神尾宮内
天野三良兵衛子
渡部新藏

一 喜連川左兵衛姉ヲ
一 加藤虎之助娘ヲ
一 大久保玄蕃娘ヲ
一 本多三弥娘ヲ
一 大久保勘三郎娘ヲ
一 近藤登之助娘ヲ
一 富永主膳娘ヲ
一 北条右近娘ヲ

福原内記
小野浅右衛門
同頼母
渡辺丹後守
渡辺六左衛門
菅谷九兵衛
有馬三九郎
竹中監物

一 松平外記娘ヲ	江原與右衛門子江
一 松平豊前守娘ヲ	岡部小右衛門
一 荒川山城守娘ヲ	長谷川四兵衛
一 松平大和守娘ヲ	内藤堪津守子江
一 松平將監娘ヲ	中根半平
一 高木主水娘ヲ	石川市正
一 松平下総守妹ヲ	榊原越中守
一 松平和泉守妹ヲ	堀 又七郎

一 北条安房守娘ヲ	堀 主膳
一 北条出羽守娘ヲ	内藤出雲守
一 谷 大學娘ヲ	油小路宰相
一 神尾若狹守娘ヲ	谷 兵助
一 織田上野介娘ヲ	水野左門
一 前田右近娘ヲ	浅野兵部

一九日
 一千代姫様御男子御平産就走諸大名ヨリ

使者上ル

一松平安藝守内室平産

一十日

上使^{ニテ}御鷹之雁^{ニ羽ツ}

拜領之衆

京極丹後守

松平對馬守

松平大和守

松平飛彈守

丹羽左京大夫

松平下野守

伊達遠江守

右之面々為御禮登城

一十一日

一酒井飛彈守息作右衛門病死

一十五日

一千代姫様七夜之御祝儀ニ上使松平伊豆守

ニテ被進候物ハ

御小袖^{三十}

尾張中納言殿

綿^{二百把}金廿枚

千代姫様

御小袖十枚

五郎太殿

産衣十

源太殿

御服指左安吉

銀子廿枚

大膳亮好庵

銀子十枚

人見
玄徳院

銀子十枚

那須
玄竹

銀子十枚

阿部
長徳院

銀十枚小袖五

泰勤御礼

一箱肴

松平甲斐守

一同断

阿部播磨守

一同断

那須遠江守

大坂御目付御暇

一金子五枚

蜷川喜左衛門

一同断

土岐縫殿介

一小袖^二金^二枚 御暇

上林竹庵

一十六日

鼻紙^{廿束}

蠟燭^{二箱}

土岐山城守

一血忌明之御礼

尾張中納言殿

一忌明之御礼

松平加賀守

一箱肴病後之御礼

牧野播磨守

駿河歸御礼

一箱肴^{新茶新餅}皆川又四郎

一花籠^二瘦辺新藏

祝言相濟御礼

一小袖^共稻葉美濃守

一同堀田備中守

一吳服^五黄金^{廿枚}御暇 牧野飛彈守

一十八日

一 公方様御城廻リニ己刻被為 成午下刻

還御鴨三

一來年御普請ニ付銅奉行被仰付

一 小川九左衛門

松野佐五右衛門

一 兵庫文麻御茶入

一 帑ニ金襴段子

一 古筆御子帑一冊

一 右八清泰院様御遺物

一 廿五日

一 御鷹場江御暇并御鷹ニ居御拜領

紀州殿

一 勤御礼

一 小袖三

松平左兵衛佐

一 綿百把金馬代

石川主殿頭

一 綿百把金馬代

水野監物

一 紫皮二十枚

石川土佐守

箱肴

湯治歸

京極近江守

御鷹之雁二羽以被下

上使水野庄左衛門

松平薩摩守

上使多賀左近

松平伊豫守

上使酒井兵右衛門

松平丹後守

上使加藤平内

松平信濃守

上使多賀左近

松平彈正

上使妻木十左衛門

森美作守

上使植村右衛門

松平式部太捕

上使能勢小十郎

奥平美作守

上使川口源兵衛

酒井榎津守

上使石川弥左衛門

真田伊豆守

右之面々為御礼登城

一廿八日

一諸大名登城

一尾張中納言殿江鷹場江之御暇并御鷹二居

一拜領

一南部山城守病後之御目見

一廿九日

十二月

一朔日

一諸大名登城月次之御目見有之

一板倉周防守於在所死去

養子被仰付候衆

一新庄越前守同名伊織ヲ養フ

一兼松下総守尾州ヨリ甥ヲヤシナフ

一安藤伊賀守同右京末子ヲ養フ

一水野甲斐守戸田主膳弟ヲ養フ

一中西主馬本多美作守二男ヲ養フ

一高木伊勢守甥ヲ養フ

一山本平九郎孫ヲ養フ

一新庄内匠宮城三左衛門二男ヲ養フ

一市岡庄太夫同太左衛門子ヲ養フ

一成瀬吉右衛門同吉左衛門子ヲ養フ

一戸田半平 養フ

一本多將監 養フ

惣領 御目見被仰付候面々

上杉宮内

柳生内膳

岡野内藏頭

依田内藏介

松永太良右衛門

森川庄九郎

金田惣八郎

間宮造酒

菅沼三五郎

二男可被召出之旨被仰渡

近藤助右衛門

酒井八良兵衛

小笠原安藝

大久保荒之助

中根平十郎

渡辺筑後守

石川^{八左衛門}八十郎

土屋忠次郎

渡辺半右衛門

石巻権右衛門

朝比奈左近

桑山伊兵衛

山岡十兵衛

大久保半左衛門

小出越中守

久世三四郎

伊藤刑部左衛門

山田十太夫

一十六日

一市橋下総守内室平産溝口出雲守息女也

一十八日

一水戸中將殿鷹場江之御暇出光

小袖二

養子之御礼

新庄市太夫

金馬代

綿百把

養父御礼

新庄越前守

金馬代

在所歸御礼

堀 三右衛門

所野助左衛門

初而御目見

一兼松下總守子

同八十郎

一山本平九郎子

同平郎

一柳生内膳子

同丸良兵衛

一日下部作十郎子

同兵左衛門

一永井式部子

同傳七

安藤彦九郎

一御菓子紀伊宰相殿鷹場江被進

上使松平織部

一廿一日

一松平阿波守於國元疱瘡之注進有之

一蜂須賀飛彈守御暇出同晚發足

一根矢百筋

泰勤御礼

山口但馬守

一箱肴

病後御礼

松平伊勢守

初而御目見之衆

一小袖五

松平内藏介

一小袖四

来山三之丞

太刀目録

上杉宫内子

同 外記

平野権平子

同 権佐

松平来女子

同 半三郎

久貝忠左衛門子

同 甚三郎

本多將監子

同 竹之助

安藤備後守子

同 太郎七

成瀬吉左衛門子

同 藤右衛門

戸田半平子

同 長吉

市岡左太夫子

同 千之介

来山伊兵衛子

同 式部

新庄内匠子

同 新八

川口孫兵衛子

同 長三郎

水野庄左衛門子

同 五郎三郎

土屋忠兵衛子

同 平三郎

已上

一尾州殿鷹場歸御礼

一二千俵宛之御加増拜領兩人

土屋但馬守

内藤出雲守

一廿二日

一大坂在番之内御城内破損奉行内藤帶刀

家来_二被下候物_一

一小袖四羽折

太田次郎左衛門

一同三

今村左右衛門

一同断

今西弥次兵衛

一同断

立木太左衛門

一増上寺破損奉行土井兵庫頭家来_二被下候

物_一

一銀十枚小袖二

堀江権右衛門

一銀十枚

多米甚五右衛門

一廿三日

銀三百枚

病中三丹後守代

狸々皮二十間

泰勤御礼

鍋嶋信濃守

色糸百斤

鼻紙二箱

泰勤

諏訪出雲守

一山内遠江守三千俵被下御詰衆被

仰付候

一千俵宛之御加増拜領兩人

松平織部

酒井藏人

一三百俵宛被下候衆

山口出雲守

森川七兵衛

牧野半右衛門

朝倉甚十郎

大岡忠四郎

彦坂九兵衛

金田宗八郎

一五百俵御加増

村越次左衛門

一二百俵被下

本多弥五右衛門

一五百俵被下

三沢惣右衛門

一百人扶持被下女院様附被為

竹田通安

一金五枚宛拜領

能勢山城守

小堀雲八

一町焼屋敷所々立申引領金一万九千兩被

下兩町奉行被仰渡

一二百石被下

伴作平

泰勤御礼衆

稻葉美濃守

上屋民部

太田原出雲守

太田原半六郎

福原淡路守

福原内記

芦野左近

奥田三良右衛門

右何毛箱肴三御礼

一御切米被下候御礼

小袖五

山内遠江守

官位之衆

一侍從

松平對馬守

一四品

酒井旗津守

一諸太夫

松平孫四郎

真田兵吉

小笠原主膳

岩城左京

小堀雲八

三枝惣四郎

松平織部

一沔眼

春德

一布衣

牧野半右衛門

森川七兵衛

朝倉甚十郎

川口孫兵衛

柘植右衛門佐

水野庄左衛門

加藤平内

桑山伊兵衛

佐野與八郎

一三百石之御加増

曾我又左衛門

一廿五日

一稻葉推之助
伊勢守跡式無相違被下

一與津三十郎息男被召出候彦十郎也

跡目被仰付候面々

一山川惣左衛門子

山川與五右衛門

一前場清左衛門養子

前場三良四郎

一廿八日諸大名登城

一廿九日安藤右京病後登城

以上

寛明日記卷第六十六終

寛明日記卷第六十七

明曆丁酉三歲至五月盡

正月

一元日御普代大名如例年御目見相濟

一二日國持大名右同断

一今日四ツ時分松平越後守上屋敷火事出来

一高田様御館之外不残焼失

一三日無官證人登城

一松平伊豆守登城無之依病氣也

一十五日諸大名登城御礼

一十七日

一公方様紅葉山江御参詣 還御之後使者

一上ル

一十八日

一戌亥風強ク吹本江之本妙寺ヨリ火事
出来未刻戌シニ風猶強ク炎火ノ熾奇

一十町ノ外へ飛渡リ烟火一天ヲ覆フ本郷
湯嶋ハ云ニ不足郷外ノ大名諸士商買ノ
民屋寺院社祠一字モ不残灰燼トナル其
夜ニ入テ搃搆ノ御堀ノ内ニ火移リテマタ
四方ニ燒蔓ル北ハ柳原東ハ深川ノ向ヲ
限リ南ハ京橋鉄炮洲ノ際ニ燒又中橋ノ
箔屋町ノ彼方此方楚渡シニ風替テ西ト
成炎火横ニ靡テ八町堀ヲ越向嶋之ハ

幡宮ノ寶殿ニ火移リ急ニ回禄スサレハ
諸人周章サワキ足ヲ空ニ逃ケ迷フ或ハ
財宝ニ心ヲ掛ルヤ角ト漂或ハ妻子ニ羈
午ヲ引背ニ肩逃ケントスル中ニ火ハ先達テ
途ヲ塞キ炎火ニ集レ煙ニ咽テ啼喚フ
其声百千ノ雷ノ如シ其火モ未消夜中
恰モ白晝ノ如シ

一十九日

一昨日ニ同シ大風強吹午ノ刻小石川邊ヨ
リ出火ス同時糺町ヨリモ火出一面ニ
焼渡テ御城内ヘ火移シカハ天守樓殿
金門石壁悉ク焼上ル
公方様モ西之御丸江 渡御但シ御乗物ニ
テ御供ハ御近習之面々也御輿ハ御步行
衆昇之此時大午ノ御番ハ兼日ヨリ小笠
原信濃守長次タリシカ自ラ鎧ヲ予ニ持

テ其傍ニ家人共皆鎗ヲ持列居サセ其身ハ
牀ルニ腰ヲ掛居タリ足輕ハ鉄炮ニ玉藥
ヲ込火縄手ニ挟或ハ空穗ヲ腰ニツケテ服
挟ニテ居ケルニ其頭々乗廻テ油断ヲ警言ム
門扉ヲ鏢テ警固スル支嚴シ此折節
御目付衆ノ兼松下総守急キ馳来テ信濃守ニ
申ケルハ御本丸大畧炎上ス故ニ
公方様モ西之御丸ニ渡御被為成然レハ御

老中諸役人物頭諸大名ニ到マテ悉ク彼処
へ供奉ス御自分ニモ早ク此所ヲ去テ彼
ニ来リ給ヘト云長次答テ申ハ我既ニ兼
日ヨリ嚴命ヲ蒙テ此御門ヲ守衛ス
然ルニ斯ニ望テ不蒙台命シテ警衛ノ
比ヲ忝ニ事頗ル勇士ノ本意ニアラサレ
ハ焼死ストモ忝ヘカラスト申切テソ扣
ケル兼松モ彼カ申旨ニ感シ急キ馳歸テ

此趣ヲ御老中ニ告時ニ阿部豊後守忠秋
被申ハ信州ノ云所誠ニ義ニ當レリ然共
西之御九江渡御之上ハ早ク彼地ヲ忖テ
西之九江可被来由ヲ申送ル兼松又馳
歸テ右之趣ヲ述タリシカハ
得シテ兼松相共ニ西之御九ニソ叅ケル
此折節ハ西之九江モ黒煙覆ヒ掛リ段々
危ク見ヘ侍リシカハ
將軍家モ庭前ニ

出御アリ御老中諸大名旗本之健士當番
之輩諸役人ニ到マテ悉ク庭上ニ跪ク係
ル火難ハ凡事ニアラスト諸人恠テ薄氷
ノ思ヲナス然ル酒井讃岐守忠勝申サレ
ケルハ暫ク愚案ヲ廻ラスニ此火難ハ天
災トハ云十カラ不審無ニアラス又ハ回祿
之弊ニ兼テ惡黨ヲ志ス莫モヤ有ニカ
所詮忠勝力下屋敷へ渡御被為成然ル

ヘカラニ哉ト被申又松平伊豆守信綱ハ東
叡山江入御在テ世上ノ跡ヲモ御覧有テ
可然候ニヤト被申彦根中將并伊掃部頭
直孝被申ハ面々了簡之如ク尋常ノ火災
トモ不存殊ニ煙火西之御九江モ覆ヒテ
殿々危ク見ヘ奉ル早ク直孝カ下屋敷江
御勤座御在而御家人等ヲ召集ノラレ
守衛正シク當時ノ変ヲモ御覧被為成御指

揮可有哉ト申ス異儀區々ニシテ評定一
爰セサル處ニ阿部豊後守被申ハ短才ヲ
憚テ愚意ヲ不言ハ不忠也然上ハ各之異
見ヲ抑ルニ似タリト云共心底ノ及フ處ヲ
申サン先東叡山或ハ面々ノ宅地ニ渡御之
支ヲ諷諫アリ予曾テ其志ヲ不辨若火
難ヲ遁給ニ為ナラハ御出城ニ及ヘカラ
ス如何ナレハ譬西九臺殿悉ク焼失スト

云フ共山里ノ空地廣大ニハ 御座何ノ
危有ニヤ若又叛逆ヲ企ル者有テ天下
ヲ謀リ奉ラハ猶以御出城然ルヘカラス
倩往昔ヲ案スルニ 御曩祖
大権現宮濃州之一戦ニ 御家運開ケシ
ヨリ此方 御當代ニ至テ四世曆數六十年
我朝ノ主ト成セ給ヒ東風枝ヲナラサス海
内波立ス庶民靡ヲ閉ル有ヲ忘ケリ然ニ

今此火災ニ時ヲ得テ叛逆ヲ企ル有アラハ
諸將等ニ仰而忽ニ御誅伐有ヘシ若又
大名天下ヲ相背有アラハ御一門之歴々
御譜代之面々御旗本之諸士ニ命セラレ
候ニ何ノ危有カ有ニ其上今年モ無キニ
御出城御在ハ却テ非常之変モ計リカタ
シ左ナクシテ頃テ還御有ニモ輕々シク
天下ノ嘲哂共唇ヲ閉ヘカニス然モ忠秋

一人カ慮ヲ以テ多人之按ヲ欺クニ有サレハ
御勤座有ニハ可然計ヒ給ヘシ忠秋ニ
於テハ先君之御遺命ニ隨而當城ニ
残り止テ御留守ヲ警固スヘシト被申ケ
レハ皆如何思ケニ兎角之詞モナキニ
公方様今年御年十七歳ニ成セ給フニ
上意ニ豐後守申込圖ニ當レリ城地ヲ
忝テ何ノ處ニカ行ニ哉ト仰ラレシカハ諸臣

上意ニ隨ヒケリ忝程ニ在江戸之大名
小名旗本之諸士此火災ニ途ヲ失ヒ馳セ
走り將軍家之御在所ヲ知奉ラス或ハ
忍川越古河東叡山ニ御座之由記説區
々ナレハ御家人之面々忙然トシテ為方ナク
當番之外ハ御門ヲ警スル勇士モナシ然
處ニ阿部豐後守家人等ハ主人之家屋
ノ焼失スルヲモ不顧弓鉄炮鎗長刀ヲ予々

ニシテ西之丸ノ城下ニ来リ下馬之邊ニ
備テ外門ヲ守衛ス忠秋ノ息播磨守ハ能
兵士ヲ數百卒ニ来リ橋之中央ニ扣タリ
青山大膳亮幸利ハ兼テヨリ紅葉山ヲ守
護スヘシト台命ヲ蒙リシカハ出火スル
ト均シク宿所ヲ出テ紅葉山江赴ク處ニ
外櫻田之御門ヲ閉テ敢テ一人モ不通
然ルニ幸利ハ紅葉山之火之御番タル由

ヲ断テ彼ヲ通テ西之丸ノ城下ニ到テ見
レハ弓鉄炮鎗長刀ヲ持タル勇士數百人
勃然トシテ列居タリ橋之上ヲ見遣タレハ
牀凡ニ腰ヲ掛ケ一將アリ大膳恠テ其名ヲ
問ニ阿部播磨守ト云シカハ青山具志之
忠切ナル莫ヲ感タリ又細川六九越中守
細利
其頃ハ未タ幼弱ナリシカ若干之大勢ヲ
引卒シテ西丸之城下ニ来テ家臣沢村宇

右番門ヲ使者トシテ御老中ノ面ニ江申ケル
ル私宅既ニ焼失スト云凡家人ヲ具シ
テ御城下ニ馳参仕候嚴命ニ隨而何レノ
所ニテモ警固可仕由ヲ申ケリ又松平陸
奥守綱宗ハ使者ヲ献シテ申ハ今日ノ火災
頗ル騒動不斜因而家人ヲ二年ニ分ケ品
川千住之兩口ヲ守ラシメ侍ルヨシヲ注進
ス此衆之外ニハ大小名旗本ニ到迄一人

トシテ西城ニ来ル者ナシ断ナルカナ
スカニ廣キ武藏野ニ尺地モナク數万
軒ノ高屋高殿大館神社佛閣一字モ
不残焦土トナル煙ニ咽ヒ追テ逃走ル橋
ヲ渡ントスル橋半ヨリ焼落ヌ火ニ焼
水ニ溺レテ死スル者數ヲ不知妻子ヲ卒
ニ斯テモ遁ルヤト船ニノリ海上ニ乗
浮メハ風荒クシテ或ハ船ヲ覆シ或ハ水

船中ニ入テ沈ヌレハ底ノ滓ト成テ失ス
或ハ風ニ放タレテ行方知ヌ船モアリ中
ニモ哀レニ傷キハ浅草ノ見付ノ外ヘ志
テ逃行者多シ如何ナル故ニヤ門ノ扉ヲ
閉タレハ人々通ヘキ様モナク跡ヨリハ
来火ハ傍ノ家々ニ移来テ頻ニ後ヲ焦ケ
ルニ堪難ク最高キ石垣ノ上ヨリ飛落
侍ケル斯テヤ命タスカルトテ吾モ々ト

飛ケル程ニ弥カ上ニ落重リテキ足ヲ踏
折或ハ頭ヲ斂ニ貫カレ泥ニ轉ヒ上ル夏
ナラス死スル者何カソヤ

一廿日
一曉方ヨリ風静ル雪降ル誠ニ廣大無邊ノ野ト
成テ處ニ藁屋板屋之営ヲナス是頃日北國
下部ノ米搗歌トヤランニ柴垣ト云々流布
ス河原者ノ業ト成大名高家歴々ノ會合

ニモ強キニ是ヲ翫フ酒宴遊興ノ座見物
又他更モナシ其柴垣ト云歌ヲ謡テ拍子
ヲ取形ヲ見レハ最ムクツケキ田舎夷カ薇
繩ヲ以口ヲ結タル如クニ作り鬚ニ座席
ニ罷出テ蓬ナキ膚ヲ脱エモ謂レヌ面ツ
キニテ肩ヲ打胸ヲ擲キ癡惚ム人ノ狂
セル形勢ニテ左様右様ニ覆リ息モツ
キアヘスアカキ俯シ仰クニ青ヲ助ケ

手ヲ鳴シヌ兵ニ見ル人サヘ疎敷片腹痛
ナニ有シカ果シテ民家士屋寺社凡ニ柴
垣ト成ケル社不思議ナレ焼死タル骸モ
目ヲ見張口ヲ廣ケ臂ヲ曲或ハ腕ヲ延膝
ヲ屈メ或ハ俯シヌハ仰ノキケル其風情
彼柴垣ヲ與シタル骸ニテ少モ異クユソ

一能勢小十郎病死

一廿一日

一今日大小名旗本之諸士ニ到マテ登城シテ

御機嫌ヲ窺フ

一今日ヨリ公儀ニテ粥ノ御施行ヲ給リ世

モ穂ニ成ヌ數万ノ商人等粥ヲ受ルニ器

物ナケレハ焼瓦ノカケヲ捧ケ来ルニ衣ナリ

ニ支厄也

今度焼失之覺

一一万石以上類火

百六拾間

但万石以上焼残ハ五十四軒

一物頭組頭番頭類火

二百拾五軒

一新番組類火

二百拾軒

一小従人組類火

六十三軒

一御書院番類火

百九拾軒

一大御番衆

百四拾軒

一町屋之類火ハ兩町ニシテ四百軒共所ニ

シテ八百町但道程二里八町

三十六町一里ニ
シテ十リ

間數四万八千間

但六尺一間
ツモリ

一家主不知町屋八百三拾軒余

一橋残りタル吳服町ノ一石橋淺草橋計

此外ハ皆焼失ス

一焼死者三万七千余此外數不知况牛馬犬

猫ヲヤ

一己上

百六計間

今度御城内ニテ焼失之御腰之物并

御服指之覽

一無銘藤四郎

一豊後藤四郎

一新身藤四郎

一シノキ藤四郎

一飯塚藤四郎

一包下藤四郎

一米澤藤四郎

一樋口藤四郎

右之外御服指三百枚計之吉光數多

一三吉正宗

一八幡正宗

一長銘正宗 一對馬正宗

一横雲正宗 一道合正宗

一シノキ正宗 本多義濃守 一小服指行平

一青木國次 一壬辰國次

一不動國平 一骨ハ吉光

一大シヤ國吉 一村雲當麻

一波阜國次 一三吉江

一西カタ江 一上杉江

一上野江 一上杉江

一伏見正宗 一紅州江

一蜂屋江

此外正宗之刀數多

以下

一左馬頭様之道具上野紀新太夫吉光ノ

一振之法國綱 秋田行平宗近此作無類

シノ九行平右ハ大刀

此外千貫計ノ行平數多百枚二百枚ノ

御道具數多三十腰計入箱計之內箱
出儿十五箱八御本九ニテ焼失ス

一廿五日御法度出儿

覺

一今度焼失之侍屋敷并町中割替ノ所々可

有之候旨當座之小屋掛候氏成程輕ク可
致支

一同作事之儀夕トニ雖為國持大名三門梁

ヨリ廣キ屋作り無用タルハシ勿論輕ク

被相定用意可有支附一階門可為停止
并駒寄可為無用支

一衣類之儀已來御定可有之候間應分限

跡々ヨリ成程輕キ物ヲ可相求令所持衣類

當分ハ不苦支附今度之火事ニ付諸道具

拵候共金銀ノカ十カイ并梨地高蔭繪ノ

類可為無用支

一浪人ヨシシノ者力由緒有之輩来候者
可相置但大勢置候候可為無用也
一小身之面々心次第妻子等ハ關所之内ノ
在々ハ可遣置也
一領内山林有之面々常ニ不残ト云此
度ハ指圖ヲ乞可任其意也
一一季居之輩如例年出替之暇ヲ旅出之ハ
今度之火更ニ付可令迷惑之間給分扶持

方食物不定候共可堪忍ト申候ハ其候
可指置勿論暇ヲ乞候ハ可出之也

月日

今度火難ニ付落書

るきりしこも焼くじやハ
人にもあはれり

武蔵野ハ人ハ入居さず家もあ
らうらうあてこまふたやう
書初も天火和合しつゝやん
みふふふふもあつてや
火いけさそ軒をけいゝろは金鹿の
ふいあつて目とあつてや
火事難火しつゝの事後と
いふとえつて何ぞいふまじ

焼死よりいふれよりあつ
火いけさそ軒をけいゝろは金鹿の
ふいあつて目とあつてや
火事難火しつゝの事後と
いふとえつて何ぞいふまじ
三界すろ族むろ衆
財寶ハ一時に焼や
さけをいふれ族むろの尻

焼浪人我方より
錦、名いしてさきやうん

一廿六日

一廿七日

一廿八日 諸大名登城

己上

寛明日記卷第六十七終

寛明事跡録卷第六十八

明暦丁酉三歳至三月

二月

朔日 諸大名登城

一保科長門守病死

三日

一伊達大膳太夫到着

四日 御暇出申衆

一銀十枚

松平越前守

一同断

松平陸奥守

一銀五百枚

佐竹修理太夫

一同断

上杉播磨守

一銀三百枚

松平對馬守

一同断

京極丹後守

一増上寺火消

一上野火消

七日

一下谷火消

新庄越前守

堀丹後守

岩城伊豫守

一櫻田山之平筋火消

秋田安房守

龜井能登守

一柳監物

黒田市正

谷大學

一腰谷御殿御引取二之御九江立可申付

阿部備中守千傳被仰付

一御塩硝藏江土掛可申被仰付

稻葉美濃守

松平若狭守

一戸田采女方ヨリ棒ト持籠ト鍬ヲ出シ

可申由被仰付

八日

一今度焼死スル人々ノ死骸或ハ海或ハ

川所々方々ヨリ集メ見出申候分三万

七千人計本所牛嶋ニ二十間四方ノ穴ヲ

堀是ヲ埋石塔ヲ建吊ヲ可仕旨増上

寺江被仰付金子三百兩被下往日

彼所ヲ取立一寺ヲ建立ニ諸宗山回

向院无縁寺ト号シ毎月十八日十九

日ニ焼死人ノ親類縁者吊来テ念

佛称名怠ラス

一 松平越後守

松平大隅守

松平新太郎

松平出羽守

森内記

松平阿波守

松平安藝守

中川山城守

有馬左衛門佐

伊東大和守

秋月長門守

毛利日向守

毛利伊勢守

土方河内守

土方奎

市橋下總守

分部伊賀守

右之衆在國之面々也聞番之者共

被召寄當年八奉勤無用之由被

仰渡御奉書出儿但御老中内證三六

月七月到而窺可申之由也

一 同 覺

一 十萬石以上國持大名先從當年三

一 十年之間奉勤進上物八

一時服^十御太刀馬代黃金一枚

一同^三御太刀馬代黃金一枚

一同^三御太刀馬代黃金一枚

右之内ヲ以應分限可被差上支

一九万石ヨリ五万石マテ

御太刀馬代金一枚

一四万九千石以下ハ

御太刀馬代銀一枚

一五万石ヨリ國持大名マテ歳暮之御

祝儀献上之分

御呉服^五

御呉服^一

同^二

同^一

右之通應分限此内ヲ以可指上支

端午重陽ニハ猶以可為減少此外

常々ハ輕キ物ヲ可有献上支
一下々音信贈答ハ泰勤端午重陽歲暮
共ニ可為無用支

覺

御本丸炎上候早速御宮作可被
仰付處下々之家屋悉焼失候之間當年
ハ御延引被成候然者諸大名御旗本
之面々町中迄其心次第輕作支仕候歟

又ハ小屋掛等可申付旨被仰付者也

二月

西之御九江諸大名之間番被召寄
右兩通之趣ヲ松平伊豆守被仰渡
此書付渡ル

覺

一銀子百貫目 高一万石ヨリ一万

五千石迄

一銀子百三十貫目

高一万六千石ヨリ

二万五千石迄

一同百五十貫目

高二万六千石ヨリ

三万五千石迄

一同百七十貫目

高三万六千石ヨリ

四万五千石迄

一同二百貫目

高四万六千石ヨリ

五万五千石迄

一同二百五十貫目

高七万六千石ヨリ

八万五千石迄

一同三百貫目

高八万六千石ヨリ

九万五千石迄

右之通可被為借候間来成年ヨリ
十ヶ年中ニ可被致上納候

一百石ニ金十五兩但九百石迄五十石

ニ付五兩増ニ被下候支

一千石 金百兩但千四百九十石迄

可為同前支

一千五百石 金百五十兩但千九百九十

石迄ハ同前五千石迄ハ百石ニ付金

五兩増ニ被下候支

一六千石ニ金五百五十兩但六千四百

九十石迄同前九千石迄ハ五百石

ニ付二十五兩増ニ被下支

一百石ヨリ下ノ事ハ小給故ニ増ニ多

被下候支

一御扶持方ハ御切米之高ニ入ル

間敷支

一御扶持方被下候面々ハ一人扶持

ニ付八木五俵宛之積ニ御金被下

一 幼少又ハ病者ニテ御番不仕輩ハ石之高ヲ以可被為借候支
右當地之御金ハ燒候ニ付テ早速御金請取人々ハ於大坂可渡之但大坂ハ大金候間銀子可相渡之千石以下ハ於駿河銀子有次第可渡之勿論遲候而不苦衆ハ於爰許可渡者也

二月

十五日

一 伊達大膳太夫參勤御目見
一金子拾六万兩銀ニハ一万貫目江戸中類火之所屋八百町ニ被下但ニ片町之積也間口一間ニ付金子一兩一分銀六匁八分宛也

十七日

一 類火之面々御金拜領之面々

一所々在々番御普請奉行或大番等
御役相勤之寄合之面々ハ知行高ヲ
以御金被下候支

一抱屋敷地代屋敷類之屋敷ニ自分
作事仕候面々ハ拜領屋鋪同前

一全知行高切米高ヲ以御金被下候支

一親兄弟ニ掛リテ在之輩并借屋之今

一全知行切米高三分ニ御金被下候

一醫師其外町屋鋪拜領仕輩ハ御

番衆並ニ知行切米高ヲ以御金被下

候町中江被下候分ハ除可申支

一御扶持之諸職人町屋ニ有之今ハ

町中江被下候御金之内ニテ可相渡

事

一御扶持之諸職人屋鋪不持分ハ御
切米高又御扶持方計取候者ハ其高ニ

于御金被下候支

一 舞、猿樂町屋敷ニ在之兮、町中江被下御金之内ニテ可相渡支

覺

一大坂并駿河ヨリ銀子御取寄被成候間、參着次第於當地可相渡候、但拜領之面々、浅井次右衛門加々美金右衛門正田喜右衛門宿所ニ如案書、于形

可調拜領之面々、八箇井七郎左衛門須田傳左衛門梶川七之丞當所ニ可調事

一 最前書付之通千石以下、駿河千石已上、八大坂ニテ銀子渡候間、早速請取度、卜被存候面々、駿河ニテハ松平丹後守井戸新右衛門神保三郎兵衛三宅太兵衛宿所ニ于形可調大坂

二丁、曾我丹波守松平隼人正深沢
茂左衛門永田左衛門土屋勘左衛門
宿所二午形裏判取可申事

拜領金子之事

一金何程

高何程

誰印判 一金何程

御切米何程

誰印判

金合何程 此銀何程 金一兩二付銀

六十五文替

右是、今度類火逢申候二付拜領

請取申處實正仍而如件

明曆三年

酉二月

前之通何十人

宿所

拜領屋敷地代屋鋪

借屋敷類火二逢家焼申拙者組支配

金二付而如此候

番頭印判

支配人誰印判

拜借仕金子之事

一金何程

高何程

誰印判

一金何程

切米何程

誰印判

金都合何程 此銀何程 但一兩二付

六十五文替

右是者今度類火_ニ逢申_ニ付為拜借

請取申所實正也但來戌年ヨリ未ノ

年迄十ヶ年ニ上納可仕候如件

明曆三年

酉二月

右前書之通

宿所

何十人拜領屋敷地代屋

鋪_{ニテ}借屋敷_{ニテ}類火_ニ逢家焼申

候拙者組支配_ニ付而如此也

番頭印判

支配誰印判

一當月五日藝州廣嶋火事所屋二百

十八軒侍屋鋪廿九軒寺屋鋪十九軒

焼失之由左頃注進有之

廿八日

一諸大名登城

廿九日

三月

朔日

銀三百枚色羽二重百疋

御太刀豊後守行平

代金
十枚

献上

右ハ松平丹後守家督御礼也

貞宗御腰物代八
十枚

隠居御礼

鍋嶋信濃守

掛物ホツター

一黄金馬代

泰勤

佐竹右京太夫

一銀馬代

同

山崎勘解由

鍋嶋信濃守家人御礼申上

一銀馬代

鍋嶋主水

一同断

同縫殿介

一 同

有田勘解由

三日

一 諸大名登城御礼有之

屋敷代之衆

一 松平越前守上屋敷安藤右京酒井

摸津守被下但右京屋鋪西之方江

出張申二付切候而十三間道二十儿

一 松平加賀守上屋鋪左馬頭様御拜

一 領

竹橋之内屋敷御上々

一 藤堂大學頭酒井摸津守屋鋪ヲ

右馬頭様御屋敷卜成但水野出羽守

屋敷少入

竹橋之内屋鋪御上

一 土井遠江守上屋敷ヲ松平和泉守ニ

被下

一 土井遠江守ニ誓願寺屋敷ヲ被下

一 松平和泉寺屋鋪ヲ酒井雅樂頭ニ

被下但添也

一右馬頭様御屋鋪ヲ酒井日向守拜領

一宮城三左衛門代官町屋敷ヲ増山彈

正老母ニ被下

一松平善太夫中山勘三郎屋鋪ヲ増山

彈正ニ被下

一慶光院屋敷ヲ藤頼母ニ被下

一日根織部屋敷ヲ安藤伊賀守被下

一安藤伊賀守屋鋪ヲ太鼓坊主ニ被下

一伊奈半左衛門屋敷ヲ松平主殿ニ被

下

一山名主殿屋敷評定所ト成

一松平新太郎中屋敷ヲ山名主殿ニ

被下

一阿部豊後守屋鋪御藏ニナル

一松平外記上屋鋪水野監物屋敷ヲ

阿部豐後守_二被下

一松平主殿頭屋敷山王天神兩社_二成

一酒井備後守屋敷_二水野監物_二被下

一智樂院屋鋪_二本多土佐守_二被下

一嶋田刑部屋鋪_二松平豐前守_二被下

一土井遠江守屋鋪之内少井上河内守

屋敷_二入添

一中根壹岐守上屋敷久津見又助屋鋪

一井上河内守老母屋敷右一所_二成_二

一松平伊豆守_二被下但一ツ橋之御門前松

一伊豆守屋敷卜五間道_二成

一土井遠江守屋敷土午_二付土屋但馬

守_二被下

一傳奏屋敷之傍評定所_二醫者衆

江被下

一圓立院神尾權十郎藤枝堪津守長

一田十太夫四屋敷ヲ合テ一屋鋪トナシ
ニ秋元越中守ニ被下

一秋元越中守屋鋪ヲ島井権之助中

一山勘三郎宮城三左衛門嶋田刑部

一四人江被下

一小日向築地ニテ清雲院ニ被下

一小石川築地ニテ回立院ニ被下

一同所築地ニテ慶光院ニ被下

一筋違橋之近所明地ヲ藤枝攝津守

ニ被下

一稻葉美濃守芝之屋鋪上リ西九下本多

一能登守元屋敷江御添被下大久保右京

一屋敷江美濃守屋鋪少入

一堀田上野介屋敷西之角切東之方ニ明

一地裡屋敷江入ル

一内屋敷玄竹龜庵元屋敷宗琢明屋

一 鋪三ツ一所ニシテ智樂院江被下引領氏ニ
一 高木玄存内田玄昌竹田式部森專益屋鋪
一 被召上評定場之跡ニテ被下ヤヨスカニ
一 町人氏之屋敷上ル
一 新評定場之際割余リニテ坂井伯元ニ
一 屋敷被下

九日

一 山崎虎之助死太ニ付彼領分江為御

一 目付多賀左近服坂六右衛門ヲ被
仰付

一 豊後府内江御目付代リ被仰付

一 石尾志摩守 国部外記

一 甲州在番被仰付

一 花房外記

一 御譜代大名衆御機嫌窺ニ登城

一 水戸江上使被遣御暇

一 黄金三枚 吳服

三枝 搦津守

一 御菓子被遣

紀伊大納言殿

一 上使 内藤出雲守

一 御菓子被遣

尾張中納言殿

一 山里九江被為成御馬 上覽

一 御西殿様江 右被仰出候御屋敷之

作事領金子二万兩宛被進

一 安藤伊賀守組日根野源左衛門浅府

二 屋敷拜領

一 仇渡江之御暇

一 吳服三羽織

御手洗四兵衛

一 戸田采女上ヶ屋鋪ヲ北条安房守稻

葉十右衛門被下

一 筋違橋之内之見付ニ戸田采女正ニ

中屋鋪被下

十五日

十 御暇出申候

一 吳服十銀百枚

松浦肥前守

一同 三十

浅野因幡守

一同 二十銀百枚

金森長門守

一同 十銀百枚

嶋津但馬守

一同 六羽折

松平美作守

一同 四羽折

一 柳宇右衛門

織田左衛門佐

一同 四羽折

一同 四羽折銀五十枚

一同 五羽折

一同 五羽折

一 蜂須賀飛彈守三十依被下御詰衆

被仰付

一箱有

参勤

渡辺因獄

一天壽院様中之丸様之作事奉行

近藤織部

關 兵部

保田美濃守 右三人ニ被仰付

一保田美濃守屋敷差上代地猿樂所ニテ

被下

イニ馬喰所

一上杉播磨守上屋敷向ウ口口形屋鋪ヲ

被差上御堀之方ノ角二間程切其

残リヲ永井日向守ニ被下

一永井日向守屋敷ヲ小出越中守ニ被下

此外近所明地之内本多美作守井上

太左衛門寄合分被下

一安倍四郎五郎元屋敷ヲ舎弟五郎

三郎ニ被下

イニ神田橋外四郎五郎三郎兩人ニ被下ト有之

一清水喜庵屋敷ヲ久保吉右衛門屋敷江

添被下

天野五郎太夫替地筋違橋内ニテ被下

十九日 泰勤御礼

一 小袖四金馬代 立花左近

一 金馬代 黒田甲斐守

一 銀馬代 木下淡路守

一 同断 青木甲斐守

一 御暇之衆

一 吳服五羽折 秋田安房守

一 同 三羽折

一 讃州九龜山崎虎之助跡番御暇

金子五枚宛 多賀左近

服坂六右衛門

一二之御九件形當年中ニ出来仕候様

二 卜国部美濃守牧野飛彈守方江

先月廿八日ニ御奉書出ル

廿四日

一 鍋嶋信濃守卒不行年七十八

追腹之面々

六百石

中根左之助

三百石

鍋嶋末女

二百五十石

志波喜左衛門

步行者 谷 牛之助

一 右四人、御當地ニテ切腹兼而國本ニ

テ追腹可仕覺悟致候者十七人内

七人、知行取奥方ニテ比丘尼ニ

成者五人

一 内藤豊前守在所棚倉ニテ煩甚敷

ニ付高木玄奘被仰付御奉書ニテ下ル

泰勤御目見

一 太刀目録

京極飛彈守

一同断

大村因幡守

一同断

久留嶋市兵衆

一同断

多羅尾左兵衛

一同断

妻木藤右衛門

一金十枚

継目御礼

板倉阿波守

一御腰物

左文字

一拜領御茶入飯田雪肩衝

一内右板倉周防守遣物献上

一御合力米被下候御礼

小袖銀馬代

蜂須賀飛彈守

一高三万二千石之内

三万石

出雲守子

諏訪右京

千石

同人二男

同兵部

千石

同人三男

同右衛門

一初御礼

太刀目録

六右衛門子

服坂甚兵衛

一紀伊宰相殿江為上使被遣御暇

金十枚

松平壹岐守

一大坂御目付代リ被遣御暇

金五枚宛

小倉忠右衛門

小田切喜兵衛

廿九日

一大坂加番被仰付

新庄越前守

松平内匠

鳥井主膳正

一下館御番被仰付

溝口又十郎

皆川又七郎

一上野御法夏火之番多羅尾左兵衛

被仰付

晦日

一松平丹後守江御番銀子三百枚

被下上使阿部豊後守

一銀子三百枚小袖二宛拜領

大御番十組

伊丹左兵衛

同三番

春藤次良右衛門

同十番

筒井次左衛門

同九番

森川六左衛門

右ハ今度江戸中橋之奉行ニ被仰付

一 林年巳上

一 林年巳上

一 林年巳上



引馬文庫

